

令和4年4月11日

メモアグリプロジェクト 2021 年度実施報告

北海道の帯広近郊はほとんど果樹が育たない地域として知られている。

東京大学の生産技術研究所と大学院農学生命科学研究科の協働で工学と農学の知を集結し、この地域で実現可能な、果樹や樹木の育成、永続可能な農業、湿原回帰による耕作放棄地の再生に関する研究を実施する。

1) 実施概要

- ① 国内で入手できるブルーベリー・サルナシ・ペカンの苗木を購入し、耐寒性を調べるためのテスト栽培を開始。結果は、今春気温上昇後（5月中旬）に検証する。
- ② 既に果樹等が栽培されているエリアにおいて生育不良が生じているため、更地に戻し、土壤改良を行ったうえで、再度栽培を目指す。令和3年度は、植わっている樹木等の抜根、耕起を行った。今春以降、耕耘とソルガムすき込みを実施し、令和5年度の果樹植栽を目指す。
- ③ 継続的な農業の実現を目指して10月28日～30日に土壤サンプリング調査を行うと共に、地質に合う農作物の検討候補として、実績がある北海道陸別町を視察訪問。
- ④ 耕作放棄地の再生、土地に紐づく生態系との永続的な共生を目指して、12月25日～26日に現地調査を実施。2月の報告会で、今後の方向性について議論を行った。

2) 研究メンバー

大学院農学生命科学研究科：

堤伸浩（研究学長・教授）、藤原徹（教授）、大黒俊哉（教授）、
岩田洋佳（准教授）、本多親子（准教授）

空間情報科学研究センター：

瀬崎薫（教授）

生産技術研究所：

大石岳史（准教授）、巻俊宏（准教授）、沖一雄（特任教授）

3) 今後の予定

令和4年5月26日に現地視察を行い、昨年度試験栽培用に植え付けた果樹苗の耐寒性を確認する。試験栽培苗の規模拡大と並行して、来年の果樹植え付けを目指して、昨年度抜根・耕起を行ったエリアの土壤改良を実施する。また、ランドスケープデザインを考慮した土地的・生物的環境ポテンシャルの評価、利用可能な植物資源の探索を行う。